

第4章 子ども・若者の健康と安全

第1節 健康

1. 子どもの体格

(1) 幼児・児童・生徒の発育状況

令和元年度の幼稚園、小学校、中学校、高等学校における幼児、児童および生徒の身長、体重の県平均値を年齢別にみると、第4-1-1表のとおりとなっています。

第4-1-1表 年齢別・男女別身長・体重の県平均値と1歳上との格差

性別	学校	学年	年齢	身長 (cm)		体重 (kg)	
				平均値	1歳上との格差	平均値	1歳上との格差
男子	幼稚園		5歳	110.3	6.4	18.6	2.7
	小学校	1年生	6歳	116.7	5.8	21.3	2.7
		2年生	7歳	122.5	5.7	24.0	3.1
		3年生	8歳	128.2	5.5	27.1	3.0
		4年生	9歳	133.7	5.7	30.1	3.6
		5年生	10歳	139.4	5.4	33.7	3.9
		6年生	11歳	144.8	7.0	37.6	4.8
	中学校	1年生	12歳	151.8	7.7	42.4	5.2
		2年生	13歳	159.5	6.2	47.6	6.3
		3年生	14歳	165.7	3.7	53.9	5.6
	高等学校	1年生	15歳	169.4	0.7	59.5	0.7
		2年生	16歳	170.1	0.7	60.2	2.2
		3年生	17歳	170.8		62.4	
女子	幼稚園		5歳	109.8	5.7	18.5	2.1
	小学校	1年生	6歳	115.5	5.5	20.6	2.6
		2年生	7歳	121.0	6.0	23.2	2.7
		3年生	8歳	127.0	6.2	25.9	3.4
		4年生	9歳	133.2	6.9	29.3	4.2
		5年生	10歳	140.1	6.9	33.5	5.1
		6年生	11歳	147.0	4.7	38.6	4.3
	中学校	1年生	12歳	151.7	3.2	42.9	3.5
		2年生	13歳	154.9	1.7	46.4	2.8
		3年生	14歳	156.6	0.5	49.2	2.4
	高等学校	1年生	15歳	157.1	1.0	51.6	1.2
		2年生	16歳	158.1	0.0	52.8	△ 0.1
		3年生	17歳	158.1		52.7	

(資料) 滋賀県県民生活部統計課「令和元年度学校保健統計調査結果」より

ア 身長

男子の各年齢間の身長差は、11歳と12歳の間が7.7cmと最も大きく、また、15歳と16歳、16歳と17歳の間が0.7cmと最も小さくなっています。

また、女子の各年齢間の身長差は、9歳と10歳、10歳と11歳の間が6.9cmと最も大きく、また、16歳と17歳の間の差がないことが分かります。

イ 体重

男子の各年齢間の体重差は、13歳と14歳の間が6.3kgと最も大きく、また、15歳と16歳の間が0.7kgと最も小さくなっています。

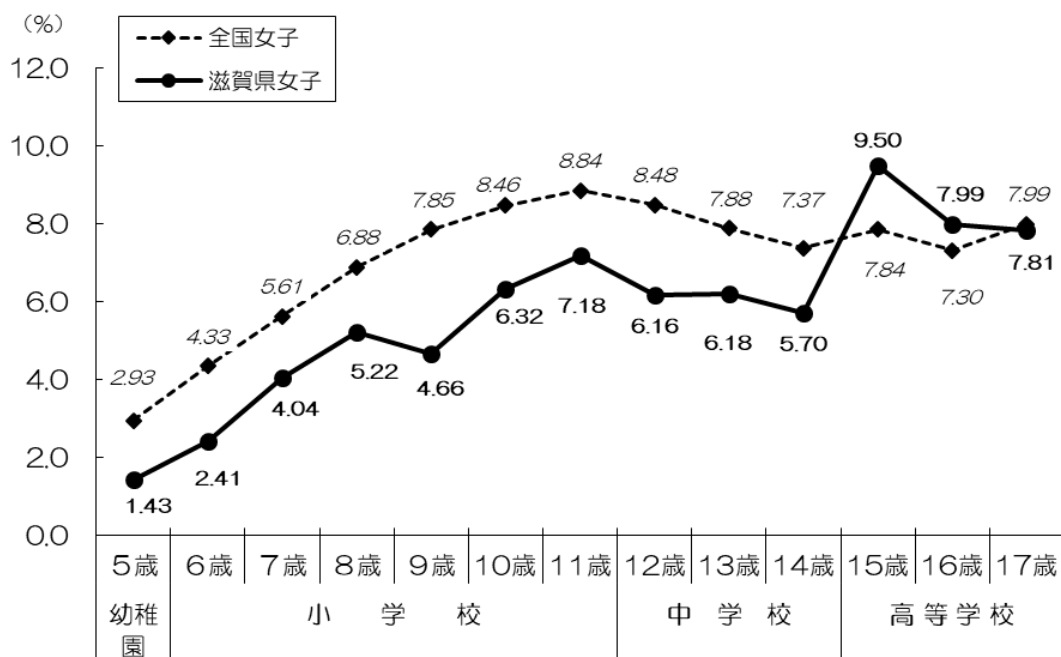
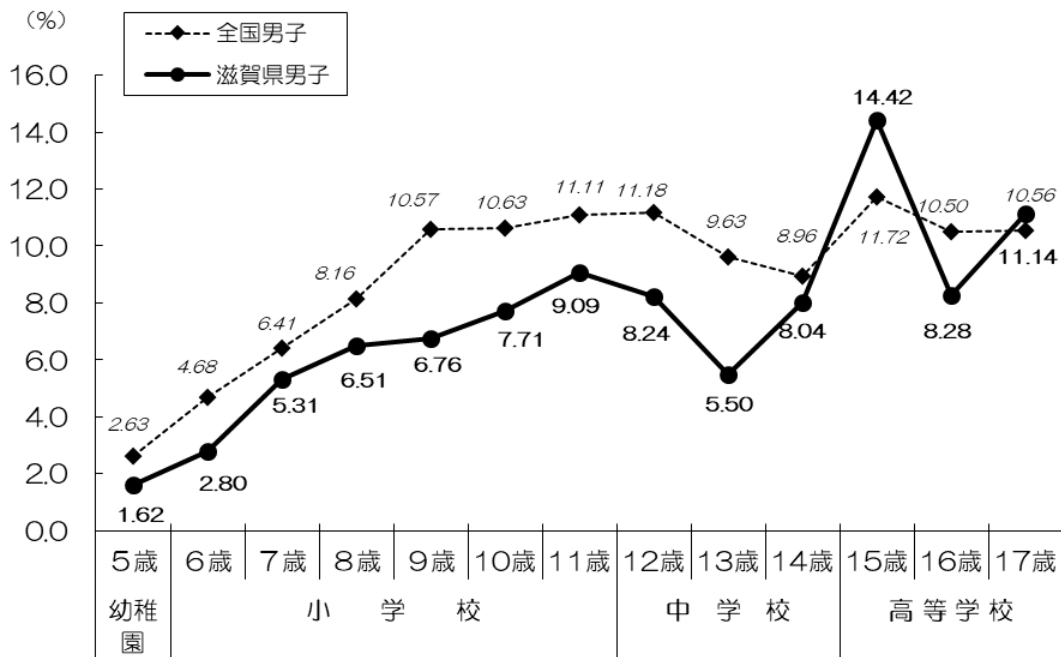
また、女子の各年齢間の体重差は10歳と11歳の間が5.1kgと最も大きく、また、17歳より16歳のほうが0.1kg上回っています。

2. 肥満・やせの状況

肥満傾向児の出現率を年齢別にみると、男女とも15歳が最も高く、男子では14.42%、女子では9.50%となっています。

これを全国平均値と比べると、男子では15歳および17歳で、女子では15歳および16歳で、全国平均値より肥満傾向児の出現率が高くなっています。

第4-1-2図 年齢別肥満傾向児の出現率



(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

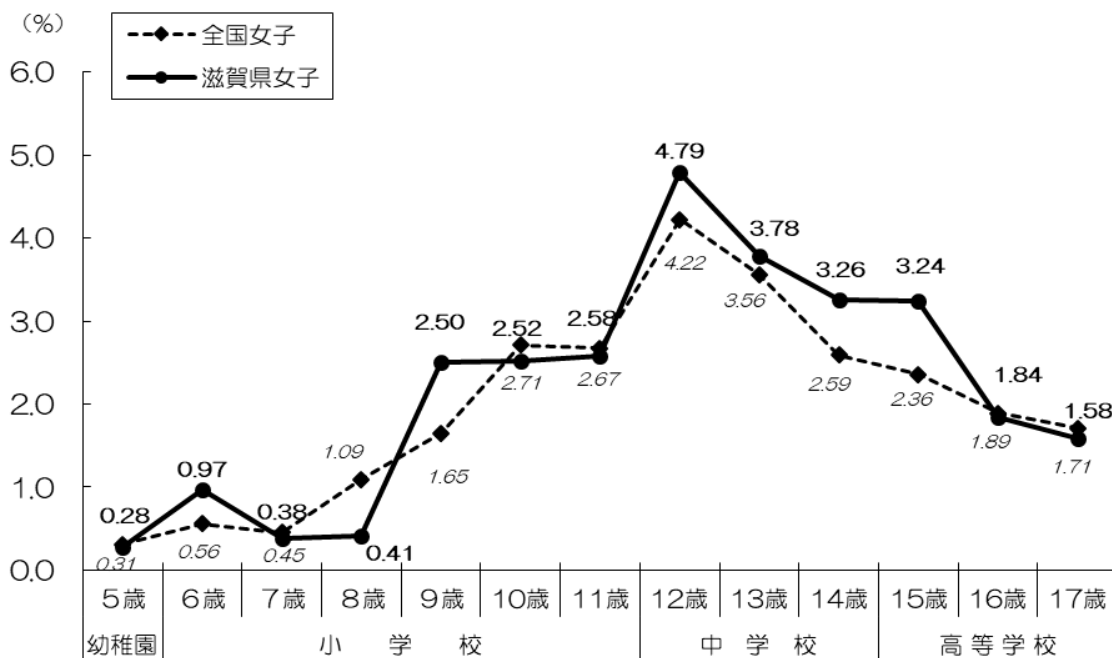
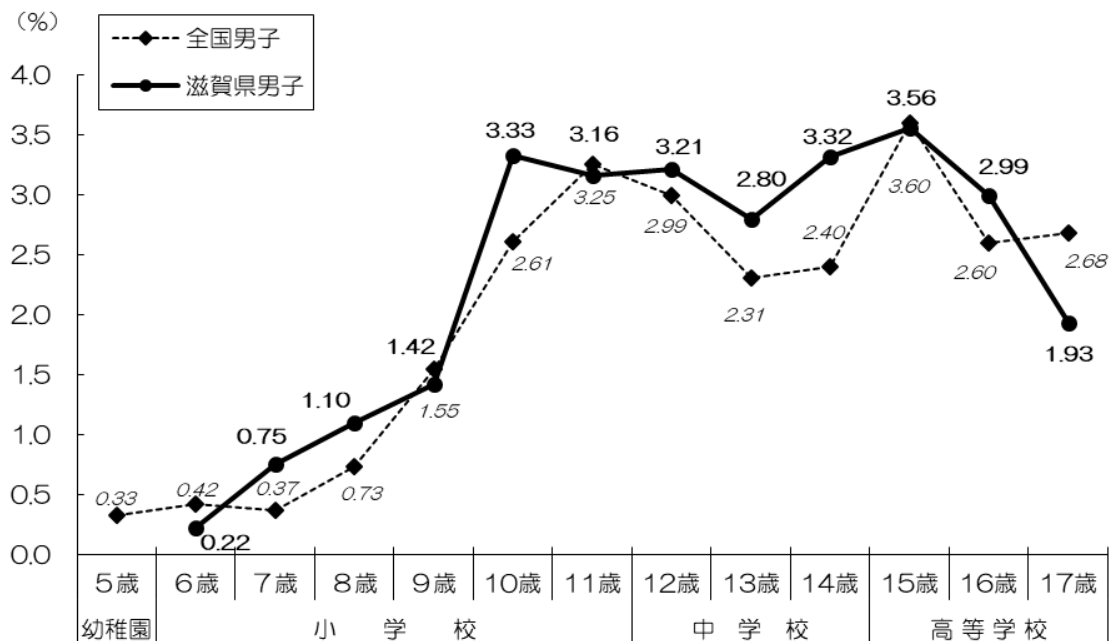
$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

(資料) 滋賀県県民生活部統計課 「令和元年度 学校保健統計速報」

痩身傾向児の出現率を年齢別にみると、男子では15歳の3.56%が最も高く、女子では12歳の4.79%が最も高くなっています。

これを全国平均値と比べると、男子では、7歳、8歳、10歳、12歳～14歳および16歳で、女子では、6歳、9歳および12歳～15歳で、全国平均値より高くなっています。

第4-1-3図 年齢別痩身傾向児の出現率

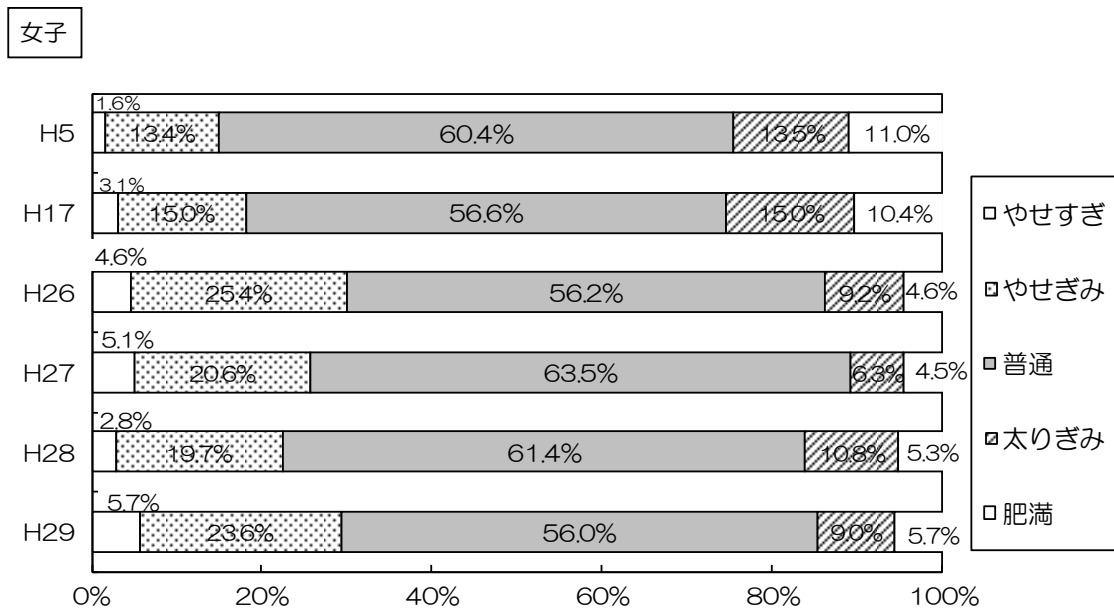
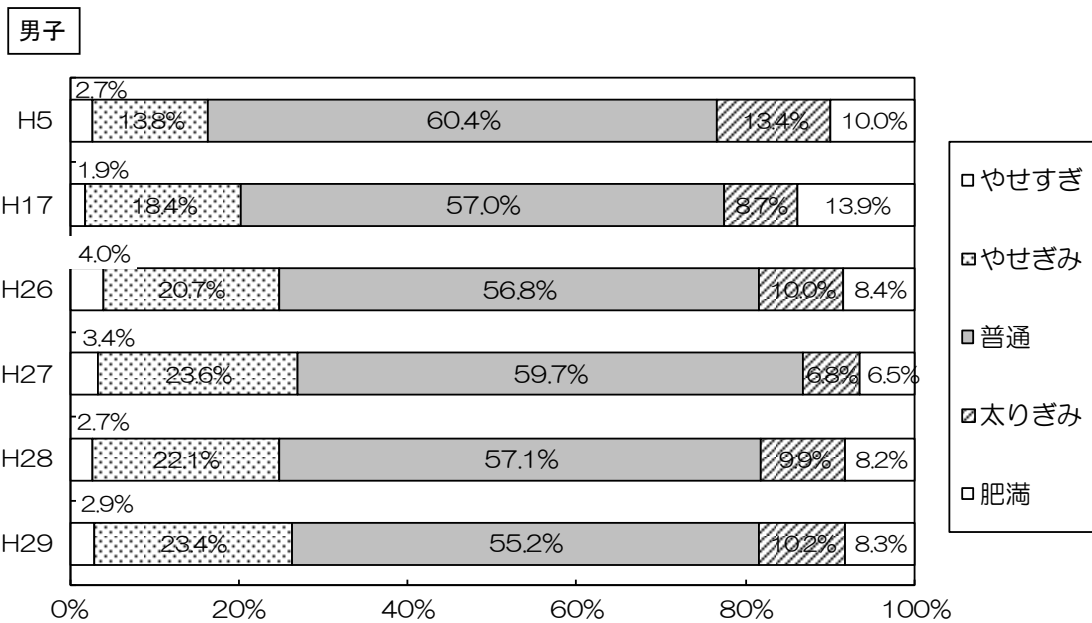


(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以上の者である。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

(資料) 滋賀県県民生活部統計課 「令和元年度 学校保健統計速報」

第4-1-4図 体型の年次推移(6~14歳)(全国)



(注) 肥満度判定において、やせすぎ：-20%未満、やせぎみ：-20%以上-10%未満、普通：-10%以上10%未満、太りぎみ：10%以上20%未満、肥満：20%以上の者としている。

(資料) 厚生労働省「平成29年国民健康・栄養調査」より

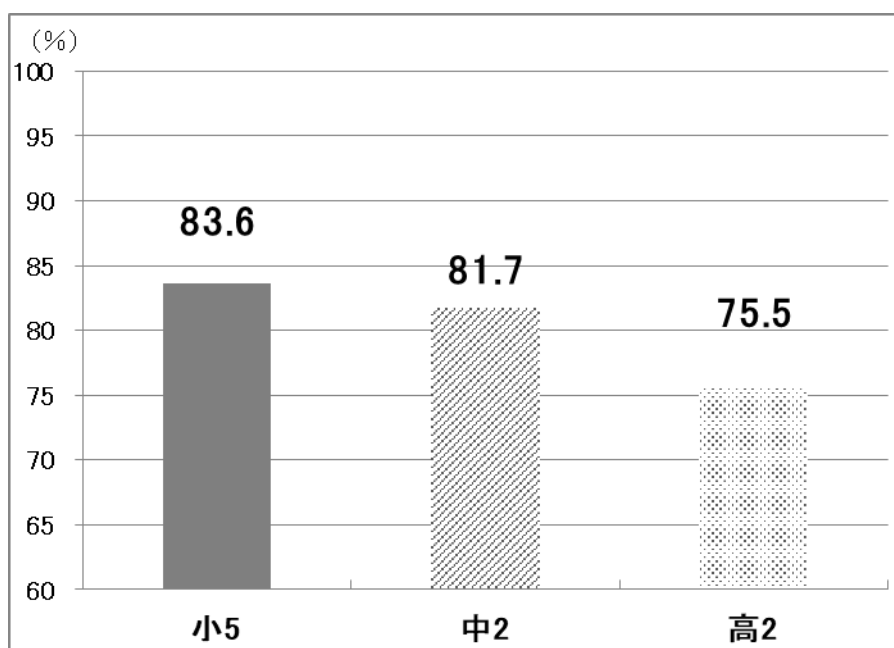
3. 朝食の摂取

令和2年度の朝食の摂取状況(毎朝食べると回答した割合)を見ると、小学校5年生が83.6%、中学校2年生が81.7%、高校2年生が75.5%となっています。

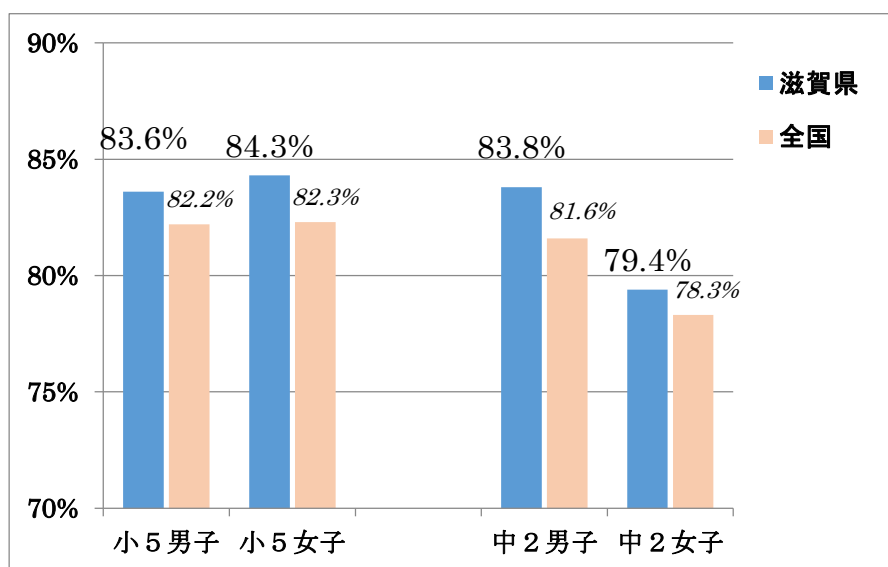
文部科学省が実施している全国体力・運動能力、運動習慣等調査(児童生徒質問)の集計結果によると、小学校5年生男女および中学2年生男女とも、全国平均値より高くなっています。

※令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査は実施されませんでした。

第4-1-5図 朝食の摂取(「毎朝食べる」と回答した割合)



(資料)滋賀県教育委員会事務局保健体育課「令和2年度児童生徒の朝食摂取状況調査」より



(資料)文部科学省「令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」より

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で調査未実施

第2節 災害・事故

1. 交通事故

(1) 年齢別発生状況

令和元年中の子ども(中学生以下)の死者数は5人、傷者数は302人で、前年とくらべて死者は4人増加(増加率400.0%)、傷者数は40人減少(減少率11.7%)しています。

高校生の死者は1人、傷者数131人で、前年に比べて死者数は1人増加、傷者数は33人減少(減少率20.1%)しています。

0～24歳の年齢層では、死者数は10人で前年より7人増加(増加率233.3%)、傷者数は1,013人で197人減少(減少率16.3%)しています。

第4-2-1表 子ども・若者の交通事故(人の死傷を伴う事故)の推移

		単位(人)															
		50年	55年	60年	平成 2年	7年	12年	17年	22年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和 元年
死	幼児・園児	5	9	4	2	4	1	1	1	2	1	0	0	0	0	1	4
	小学生	6	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	中学生	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	高校生	7	6	4	4	4	4	2	0	1	1	0	0	0	1	0	1
者	0～19歳	38	33	30	26	25	11	13	2	4	3	2	2	2	4	2	7
	20～24歳	11	11	24	21	23	20	14	6	6	9	2	6	5	1	1	3
傷	幼児・園児	403	383	297	210	264	288	321	219	182	188	134	134	113	78	83	75
	小学生	337	441	369	332	381	363	491	409	281	296	268	237	185	190	143	124
	中学生	79	106	169	173	175	221	243	271	224	221	158	148	141	149	116	103
	高校生	340	250	299	304	347	435	380	367	312	286	236	196	185	174	164	131
者	0～19歳	1,527	1,633	1,910	1,829	1,894	2,134	2,144	1,759	1,406	1,341	1,116	970	861	794	686	581
	20～24歳	853	743	1,129	1,374	1,861	2,119	1,901	1,326	1,166	1,161	891	762	646	602	524	432

(資料)滋賀県警察本部交通企画課

(2)状態別発生状況

子ども(中学生以下)の死傷者数は、自動車同乗中が143人(子どもの全死傷者数の46.6%)で最も多く、次いで自転車乗用中が99人(32.2%)、歩行中が60人(19.5%)となっています。

高校生の死傷者数は、自転車乗用中が88人(高校生全死傷者数の66.7%)で最も多く、次いで自動車同乗中が25人(18.9%)となっています。

第4-2-2表 子ども・若者の交通事故状態別死傷者数(令和元年)

状態別		校種	幼児・園児		小学生		中学生		高校生		合計		
			死者	傷者	死者	傷者	死者	傷者	死者	傷者	死者	傷者	
歩行	対面通行中				1							1	
	背面通行中		1		1		1		1			4	
	横断	横断歩道		2		11		2		5			20
		横断歩道付近		1		3		1					5
		横断歩道橋付近											
		その他		2		8		3		1			14
	路上遊戯中		1		1							2	
	路上作業中												
	路上停止中	2	11		1				1	2		13	
	その他	1	2		1		3		2	1		8	
小計	3	20		27		10		10	3		67		
自転車乗用中			5		38		56		88			187	
二輪車	運転中								8			8	
	同乗中						1		1			2	
自動車	運転中												
	同乗中	1	48	1	57		36	1	24	3		165	
その他			2		2							4	
合計		4	75	1	124		103	1	131	6		433	

(資料)滋賀県警察本部交通企画課

(3)違反別発生状況

子ども(中学生以下)の死傷者数についてみると、歩行中では、飛び出しによる傷者が12人で全体の21.1%を占め、内訳は幼児が3人、小学生が7人、中学生が2人となっています。

自転車乗用中では、交差点安全進行義務違反による傷者が27人で、全体の27.3%を占め、内訳は幼児が1人、小学生が11人、中学生が15人となっています。

高校生の自転車事故についてみると、第1当事者又は第2当事者となった事故では、交差点安全進行義務違反が多く33人(高校生の自転車事故の35.9%)となっています。

第4-2-3表 違反別死傷者数[子ども(中学生以下)](令和元年)

単位(人・%)

違反	校種	幼児		小学生		中学生		計						
		死 者	傷 者	死 者	傷 者	死 者	傷 者	死 者	傷		死 者	傷		
									前年 対比	構成 率		前年 対比	構成 率	
歩 行	信号無視		1								1		1.8	
	左側通行		1				1				2	1	3.5	
	車道通行				1						1	1	1.8	
	横断歩道外横断				2		1				3	△ 2	5.3	
	斜め横断											△ 1		
	駐車車両の直前直後横断					3					3	3	5.3	
	走行車両の直前直後横断				1		2				3	△ 5	5.3	
	幼児のひとり歩き	1	3					1		33.3	3	△ 1	5.3	
	路上遊戯											△ 3		
	飛び出し		3		7		2				12	5	21.1	
	その他						1				1	1	1.8	
	不明													
	違反なし				12		3				15	△ 3	26.3	
	中	第3当事者以下	2	12		1			2	2	66.7	13	7	22.8
計		3	20		27		10	3	2	100.0	57	3	100.0	
自 転 車 乗 用 車	信号無視											△ 4		
	右側通行				3		1				4	2	4.0	
	横断転回禁止違反				6						6	△ 6	6.1	
	進路変更禁止違反													
	追越し違反													
	右折違反						1				1	△ 1	1.0	
	左折違反											△ 1		
	優先通行妨害等				2		4				6	△ 3	6.1	
	交差点安全進行義務違反		1		11		15				27	7	27.3	
	交差点徐行場所違反		1		4		4				9	△ 11	9.1	
	指定場所一時不停止等				2		8				10	△ 3	10.1	
	乗	自転車の通行方法違反										△ 3		
	用 車	安全運転				3		4				7	△ 8	7.1
		義務違反				5		12				17	8	17.2
その他											△ 2			
不明														
中	違反なし				2		6				8	△ 3	8.1	
	第3当事者以下						1				1	△ 1	1.0	
	同乗中		3								3	△ 1	3.0	
計		5		38		56				99	△ 30	100.0		

(資料)滋賀県警察本部交通企画課

第4-2-4表 違反別当事者数[高校生](令和元年)

単位(人・%)

違反		区分	第一当事者	第二当事者	計	前年対比	構成率	
四	輪	信号無視						
		優先通行妨害等						
		交差点安全進行義務違反						
		ハンドル・ブレーキ操作不適						
		前方不注意						
		その他	1		1	△2	100.0	
		不明						
		違反なし				△1		
		計		1		1	△3	100.0
二	輪	信号無視	2		2	1	22.2	
		右側通行						
		最高速度違反						
		右左折違反				△1		
		優先通行妨害等				△1		
		交差点安全進行義務違反		1	1	△3	11.1	
		徐行場所違反				△1		
		指定場所一時不停止等				△1		
		安全	ハンドル・ブレーキ操作不適					
		運転	前方不注意	1		1	1	11.1
		義務	安全不確認	1		1	1	11.1
		違反	その他	1	3	4	2	44.4
		その他					△3	
		不明						
違反なし					△1			
計		5	4	9	△6	100.0		
自	転	信号無視	2		2	△1	2.2	
		右側通行	1		1	△2	1.1	
		右折違反		1	1		1.1	
		優先通行妨害等	2		2	△4	2.2	
		交差点安全進行義務違反	1	32	33	9	35.9	
		徐行場所違反		1	1	△9	1.1	
		指定場所一時不停止等	11	1	12	3	13.0	
		自転車の通行方法違反		1	1	△3	1.1	
		安全運転義務違反	1	24	25	△3	27.2	
		その他	5	2	7	△8	7.6	
		不明						
		違反なし		7	7	2	7.6	
		計		23	69	92	△16	100.0
歩	行	横断歩道外横断				△1		
		飛び出し				△1		
		その他	1	2	3	△1	30.0	
		不明						
		違反なし		7	7	1	70.0	
計		1	9	10	△2	100.0		

(資料)滋賀県警察本部交通企画課

(4)登下校(園)中の発生状況(自動車乗車中を除く)

子ども(中学生以下)の登下校中の傷者数は53人、また、高校生の登下校中の傷者数は71人で、子ども(中学生以下)および高校生とも死者はありませんでした。

状態別でみると、小学生では傷者12人全員が歩行中でした。一方、中学生では傷者数40人のうち33人(82.5%)が自転車乗用中、高校生では傷者数71人のうち67人(94.4%)が自転車乗用中でした。

第4-2-5表 登下校(園)中の交通事故発生状況(令和元年)

単位(人)

校種	歩 行 中				自 転 車 乗 用 中				二 輪 車 乗 用 中			
	死 者		傷 者		死 者		傷 者		死 者		傷 者	
	登校	下校	登校	下校	登校	下校	登校	下校	登校	下校	登校	下校
幼 児 ・ 園 児			1									
小 学 生			4	8								
中 学 生			2	5			18	15				
高 校 生			2	2			43	24				

(資料)滋賀県警察本部交通企画課

2. 水難・船舶事故

(1) 過去5年間の水難・船舶事故の発生状況

水難・船舶事故は、毎年夏場を中心に発生しています。過去5年間に水難・船舶事故は、347件発生し、このうち少年が関係する事故等は60件で全体の約17%を占めています。

少年が関係した事故等の態様で多いものは、水難では琵琶湖や河川での水遊びや水泳中のもの、船舶事故ではボート練習中の転覆事故や強風等による漂流事故等です。

第4-2-6表 過去5年間の水難・船舶事故の発生状況

項目	年別 事故種別	平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年	
		水難	船舶	水難	船舶	水難	船舶	水難	船舶	水難	船舶
事故発生数	発生件数(件)	17	43	16	46	15	71	17	42	16	64
	総数	60		62		86		59		80	
	少年の関係件数(件)	7	8	3	6	3	6	3	7	7	10
	総数	15		9		9		10		17	
	少年の占める割合	25.0%		14.5%		10.5%		16.9%		21.3%	
死者・行方不明者	死者・行方不明者数(人)	11	2	9	5	12	2	9	3	12	1
	総数	13		14		14		12		13	
	少年の数(人)	2	0	1	0	1	0	2	0	4	0
	総数	2		1		1		2		4	
	少年の占める割合	15.4%		7.1%		7.1%		16.7%		30.8%	
負傷者	負傷者数(人)	3	15	2	18	1	25	5	20	3	25
	総数	18		20		26		25		28	
	少年の数(人)	3	4	0	3	0	1	1	3	3	2
	総数	7		3		1		4		5	
	少年の占める割合	38.9%		15.0%		3.8%		16.0%		17.9%	
無事救助者等	救助者数(人)	6	64	5	60	3	133	3	75	2	147
	総数	70		65		136		78		149	
	少年の数(人)	4	4	2	7	2	12	0	8	0	14
	総数	8		9		14		8		14	
	少年の占める割合	11.4%		13.8%		10.3%		10.3%		9.4%	
被災者合計	全被災者数(人)	20	81	16	83	16	160	17	98	17	173
	総数	101		99		176		115		190	
	少年被災者数(人)	9	8	3	10	3	13	3	11	7	16
	総数	17		13		16		14		23	
	少年の被災率(%)	45.0%	9.9%	18.8%	12.0%	18.8%	8.1%	17.6%	11.2%	41.2%	9.2%
	全少年被災率(%)	16.8%		13.1%		9.1%		12.2%		12.1%	

(資料)滋賀県警察本部地域課

(2) 令和元年中の水難・船舶事故の発生状況

令和元年中の水難・船舶事故は80件発生し、このうち少年が関係する水難が7件、船舶事故が10件発生しています。

第3節 犯罪や虐待による被害

1. 犯罪被害の状況

令和元年の刑法犯による被害少年の数は999人で、前年に比べて193人減少しました。

包括罪種別の被害では、窃盗犯による被害者数が832人と前年に比べて169人減少しており、凶悪犯による被害者数は8人で前年に比べて6人増加しました。

年齢別の被害では、13～19歳の被害者数が935人と被害少年全体の93.6%を占めています。

また、福祉犯による被害少年の数は43人で、その内、女子は37人と全体の86.0%を占めています。

※ 福祉犯とは、児童ポルノや児童買春等、少年の心身に有害な影響を及ぼし、健全な育成を著しく阻害する犯罪のこと

第4-3-1表 刑法犯による被害少年の数(平成30年、令和元年)

	平成30年				令和元年				前年比
	被害少年総数	0～5歳 (うち女)	6～12歳 (うち女)	13～19歳 (うち女)	被害少年総数	0～5歳 (うち女)	6～12歳 (うち女)	13～19歳 (うち女)	
総数	1,192	6 (2)	84 (33)	1,102 (385)	999	6 (1)	58 (23)	935 (312)	-193
凶悪犯	2		1	1 (1)	8	1 (1)		7 (5)	6
殺人					1	1 (1)			1
強盗					1			1	1
放火									
強制性交等	2		1	1 (1)	6			6 (5)	4
粗暴犯	76	5 (2)	10 (3)	61 (11)	73	2	8 (2)	63 (21)	-3
暴行	27	1	6 (2)	20 (3)	31		2	29 (13)	4
傷害	40	4 (2)	3	33 (6)	32	2	6 (2)	24 (5)	-8
脅迫	3		1 (1)	2 (2)	5			5 (3)	2
恐喝	6			6	5			5	-1
窃盗犯	1,001		65 (22)	936 (309)	832		46 (17)	786 (230)	-169
侵入盗	3			3 (2)	9			9 (7)	6
乗り物盗	849		51 (19)	798 (257)	710		35 (11)	675 (186)	-139
非侵入盗	149		14 (3)	135 (50)	113		11 (6)	102 (37)	-36
知能犯	12			12 (7)	16			16 (9)	4
風俗犯	31		5 (5)	26 (26)	25		4 (4)	21 (21)	-6
うち)強制わいせつ	31		5 (5)	26 (26)	25		4 (4)	21 (21)	-6
その他	70	1	3 (3)	66 (31)	45	3		42 (26)	-25

(資料)滋賀県警察本部少年課

第4-3-2表 福祉を害された少年の数(令和元年)

単位(人)

違反法令	被害者		学齢に達しない者		小学生		中学生		高校生		大学生等		有職少年		無職少年	
	被害者 総数	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	(うち女)	
総数	43	37			2	1	28	25	12	10					1	1
風営適正化法	5	3					4	2							1	1
風俗営業の接待業務	1	1													1	1
飲食店営業の酒類提供	4	2					4	2								
風俗営業の酒類等提供																
児童福祉法	6	6					5	5	1	1						
淫行させる行為																
児童買春・児童ポルノ禁止法	21	19			2	1	16	15	3	3						
児童買春	8	8					5	5	3	3						
姿態をとらせる方法による製造	9	8					9	8								
特定少数に対する提供																
盗撮製造	4	3			2	1	2	2								
労働基準法																
年少者に関する深夜業																
覚せい剤取締法																
譲渡																
使用																
出会い系サイト規制法																
児童に対する性交等誘引																
青少年健全育成条例	10	8					3	3	7	5						
未成年者喫煙禁止法	1	1							1	1						
その他																

(備考)被害少年数は実数

(資料)滋賀県警察本部少年課

2. 児童虐待の状況

児童虐待は子どもの人権を著しく侵害するもので、その心身の成長および人格の形成に重大な影響を与え、最悪の場合には、命を奪います。また、将来の世代の育成にも懸念を及ぼします。

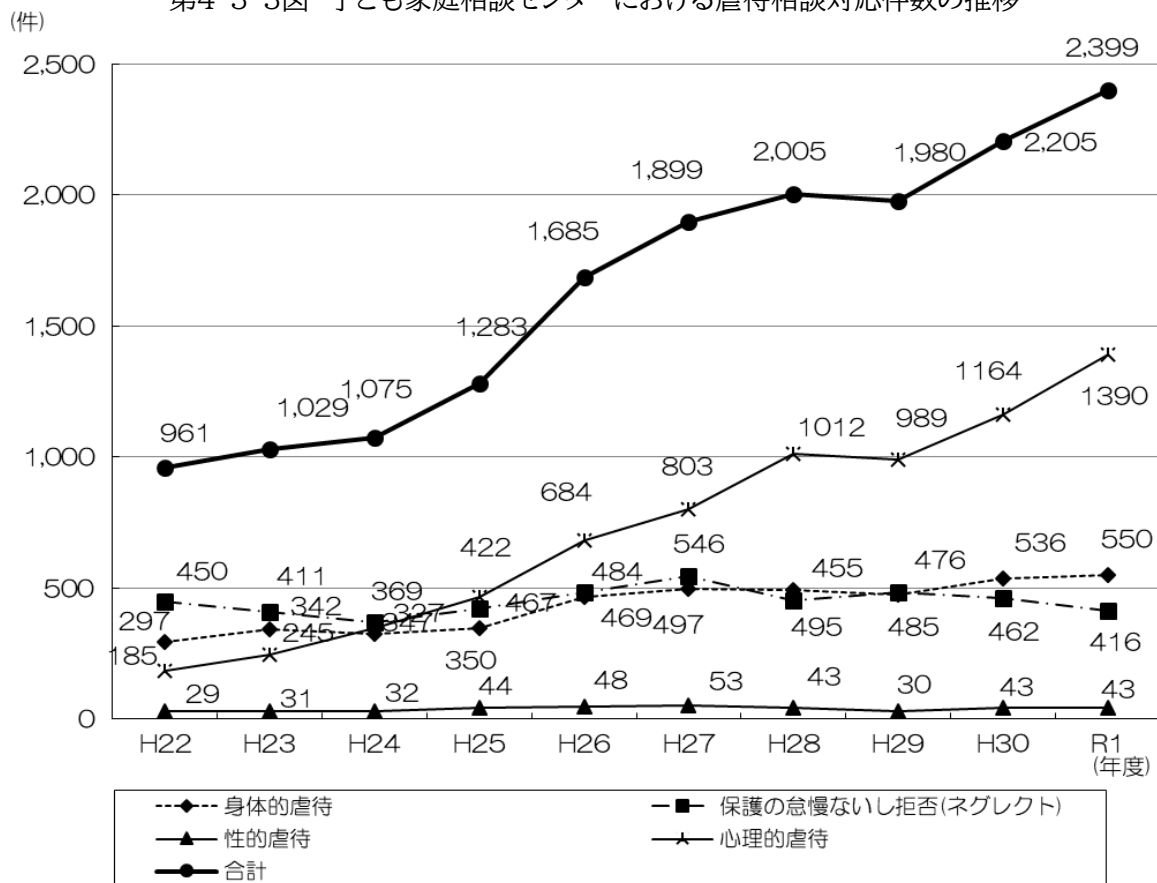
本県の児童虐待相談対応件数は年々増えつづけ、令和元年度は7,873件で、前年度比で610件増加し、8.4%の増加率となっています。また、国における児童虐待防止対策総合強化プランの策定や、児童福祉法等の改正により、児童相談所や市町の体制強化および専門性強化がより一層求められています。

このような中、県では、市町、関係機関、県民との連携のもと、未然防止から早期発見・早期対応、子どもの保護・ケア、親子関係の修復・家庭復帰(家族の再統合)、子どもの自立までの切れ目のない総合的な支援を行っています。

《県内の児童虐待相談対応件数》

市町7,864件 + 子ども家庭相談センター2,399件 - 2,390件(連携分) = 7,873件

第4-3-3図 子ども家庭相談センターにおける虐待相談対応件数の推移



(資料)滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局

第4-3-4表 児童虐待による事件検挙状況(平成30年、令和元年)

単位(件)

区分	平成30年	令和元年	増減
合計	6	18	12
身体的虐待	5	12	7
怠慢又は拒否		2	2
性的虐待	1	4	3
心理的虐待			

(資料)滋賀県警察本部少年課

3. 子ども110番の家設置状況

「子ども 110 番の家」とは、子どもが「声かけ、痴漢、つきまといなどの被害に遭った」、または、「遭いそうになった」と助けを求めてきたときに、その子どもを安全に保護するとともに、警察、学校、家庭等へ連絡するなどして、地域ぐるみで子ども達の安全を守っていくボランティア活動です。

各地域では、一般家庭をはじめとする多くの県民、事業者の皆さんの御協力により、「子ども 110 番の家(店・車)」の設置促進と活動充実が図られています。

子ども 110 番の家(店・車)設置状況(令和2年 3 月末現在)

◎「子ども 110 番の家(店)」として把握している一般住宅、店舗等…………… 17,289 箇所

◎「子ども 110 番の車」として把握をしている四輪車、二輪車等 …… 1,736 台